

8部

通信制大学院コーナー

【本コーナー以外のご参照ページ】

＊新型コロナウイルスの5類移行に伴う対応について p. 5～6 参照

＊仙台駅東口キャンパス他のご案内 p. 52参照

＊【再掲】昨今の日本郵便の配達日数について p. 4およびp. 42参照

2023年度入学生数

ご入学おめでとうございます。通信制大学院へは、正科生21名（社会福祉学専攻13名・福祉心理学専攻8名）の方がご入学されました。心よりお喜び申し上げます。

1 今年度修了希望の方へ

今年度はいよいよ修士論文を提出し、修了を目指されることとなります。下記をご確認のうえ修了までの流れをしっかりと把握しましょう。

- (1) 2023年度の修士論文作成を許可された方へは、前年度末に許可のお知らせと同封で「面接指導票」、「通信指導票」を送付しています。
- (2) 4月初旬に『2023年度 学年暦』を送付しました。各レジユメの提出締切日、修士論文提出締切日、修了者の最終レポート提出期限や提出方法などを把握し計画的に取り組みましょう。
- (3) 入学年度に配付済み『通信制大学院ガイドブック2022・2021』 p. 64～83（2章 修士論文の作成）より、下記の①～⑥を再度確認してください。
 - ① 修士論文執筆の準備として、前年度までに書き方や方法論の学習をお勧めしていますが、十分でない方は『通信制大学院ガイドブック

2022・2021』p. 36～67を確認し、急ぎ理解を深めること。

- ② 指導を受ける手続きについては、『通信制大学院ガイドブック 2022・2021』p. 72～73を必ず読み、疑問点は早めに解消するようにすること。
- ③ 第2回中間レジュメ提出時（10/24締切）に「修士論文提出願」を添付いただきますが、それまでに担当教員から論文指導を十分に受けていない、論文の進捗状況が芳しくないなどの場合、修士論文の提出が許可されません。計画的に、論文を執筆するようにしてください。
- ④ 後半は修士論文作成に集中できるよう、授業科目の単位修得が必要な方は、7月（遅くとも9月）までにはレポートをご提出ください。
- ⑤ 修士論文提出締切日は、2024年1/22(午後4時)。
- ⑥ 修士論文の最終試験となる口述試問の日程変更は応じられません。

●研究倫理審査申請について

- ・研究活動にあたり、研究方法によっては、必ず実施前に、本学大学院研究倫理審査委員会の審査を受け、実施を認められる必要があります。
※特に、アンケート、ヒヤリングやグループインタビューなどの対面・接触を伴うデータ収集を行う場合、新型コロナウイルスの感染防止について、どのような対象に、どのような配慮をしているか、記載が必要です。
- ・詳細は、今年度の修士論文作成が許可となった方へ、4/6送信のメール“「修士論文研究倫理審査申請について（ご連絡）2023」”でもご確認ください（添付ファイルの下記書類も要確認）。
「研究倫理審査チェックシート」「①研究倫理審査申請書」
「②研究協力同意書」「③研究協力同意撤回書」
- ・上記①～③等を、指導教員の指導を受けて作成し、指導教員の署名捺印いただいたうえ、次ページの締切日までに申請（提出）してください。

【研究倫理審査申請締切日】

1	5月の第二水曜日	<提出先>
2	6月の第二水曜日	ウェルコム21大学院事務室
3	7月の第二水曜日	【注】通信制大学院事務室経由で提出する場合は、締切日2日前（月曜日）必着で送ってください。
4	8月の第二水曜日	

※審査にはおおよそ3週間を要します(余裕をもってご申請ください)。
※審査承認後に変更が生じた場合、その都度、変更申請書の提出が必要。

●第1回中間レジュメについて

(1) 第1回中間レジュメの提出及び執筆要領

提出締切日	2023年8/18(金)必着
第1回中間レジュメ	『通信制大学院ガイドブック2022・2021』p. 69参照
提出方法・執筆要領	『通信制大学院ガイドブック2022・2021』p. 70参照
指導について	『通信制大学院ガイドブック2022・2021』p. 72～73参照

(2) レジュメは、提出前に指導教員から指導を受けてください。

(3) 構想レジュメの受付は、5/17で終了。

2 (新入生の方) 日本学術振興会「研究倫理e-ラーニングコース」受講について

入学時にご案内しておりました、日本学術振興会「研究倫理eラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE]」の受講につきまして、4月初旬に日本学術振興会より、個人の大学メールアドレス

レス宛にID・パスワードの通知がされていますのでご確認ください。

【受講方法】

- ①日本学術振興会より届くID・パスワードを確認。
- ②下記サイトにアクセスし、ID・パスワードを入力、ログインして受講。
(<https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>)
- ③受講完了後は「修了証書」のPDFデータを下記提出先へメール提出。

提出先	本学 研究企画推進課 永浦【 nagaura@tfu.ac.jp 】宛
提出締切日	2023年8/31必着

※注意：提出先は、通信制大学院事務室とは異なります。

3 学習について

●レポートや在宅レポート試験などについて

『通信制大学院ガイドブック』（2023：p.27～31、2022：p.25～28）を参照し、下記についてご確認ください（提出締切日は『2023年度 学年暦』を参照）。

- (1) 履修方法SR科目（「社会福祉学特別研究Ⅱ」「福祉心理学特別研究」は除く）は、スクーリング全日程終了後に『科目別ガイドブック2023』記載の事後課題レポートを提出（事前課題やスクーリング中の課題とは異なります）。
- (2) 事後課題レポートは、スクーリングに出席した年度内に提出（今年度の提出締切1/9）。提出方法は、『科目別ガイドブック2023』p.4～6を参照。
- (3) 課題レポートと試験レポートは、提出方法が異なります。初回の提出

は、『科目別ガイドブック2023』 p. 4～9を要確認。

- (4) R科目の課題レポートで、今年度単位修得したい科目の提出締切は、1 / 9 (今年度修了予定者：11 / 30)。

*締切後1ヵ月程度でレポート返却となります。この時点で評価が再提出となった場合は、今年度の単位修得はできなくなります。

- (5) 在宅レポート試験（単位修得試験）は、各科目のレポート2課題に合格後、1週間程度で事務室から試験問題（試験レポート）を送付します。

- (6) 試験レポートの最終提出締切は、2 / 19 (今年度修了予定者：1 / 18)。

*最終締切で提出した試験レポートの評価が不合格（再提出）の場合や締切に遅れた場合、次年度以降の単位修得となります。『通信制大学院ガイドブック』 p. 28参照。

- (7) 試験レポートの締め切りは、年4回（『2023年度 学年暦』参照）。

*今年度中に単位修得したい科目については、3回目の試験レポート提出までに終わらせましょう（最終の4回目ではそれまでの評価が不合格〔再提出〕になった科目や来年度に単位修得しても構わない科目を提出するように計画）。

●スクーリングについて

『通信制大学院ガイドブック』（2023：p. 29～31、2022：p. 27～29）をお読みいただき、下記の点について再度ご確認ください。

- (1) スクーリングは、全日程出席が必須（事前課題への取り組みも必要）。

*日程の一部欠席や遅刻・早退をした場合は、単位の修得不可。

- (2) 今年度履修登録をしたSR科目について、やむを得ない事情によりスクーリングを欠席する場合は『通信制大学院ガイドブック』（2023：p. 30、2022：p. 28）の「受講手続き」の2）に基づき事務室にご連絡ください。

- (3) 昨年度までに履修登録済みで、スクーリングに出席していないSR科目について、今年度の出席を希望する方は、履修登録時にお申し出が必要です。お申し出のない方は出席できません、ご了承ください。

*事前事後課題は、『科目別ガイドブック2023』記載の課題に取り組んでください。

- (4) 福祉心理学専攻と2022年まで入学の社会福祉学専攻の演習科目の単位を修得するためには、福祉心理学専攻では同選択講義科目、社会福祉学専攻では同研究科目の単位修得が必要です。
- (5) 今年度のスクーリング日程については、『2023年度 学年暦』を参照。
- (6) 6～8月の会場でのスクーリングは下記のとおりです（日程順）。

【注意】状況に応じて会場ではなくリモートで実施する場合があります。

日程	科目	対面(会場)スクーリング教室
6/17・18	福祉心理学研究法特論	東口キャンパス3階「演習室4」
6/24	社会福祉法制・権利擁護研究	東口キャンパス3階「演習室4」
6/25	福祉経営・マネジメント研究Ⅱ	東口キャンパス3階「演習室4」
6/30～7/2	心理:演習(学校・教育心理学)	東口キャンパス3階「演習室4」
7/8	高齢者福祉研究Ⅱ 心理:演習(高齢者心理学)	東口キャンパス3階「演習室4」
7/15	福祉経営・マネジメント研究Ⅰ	東口キャンパス3階「演習室2」
7/22・23	心理:演習(健康心理学)	東口キャンパス4階「41教室」
7/22・23	医療福祉研究Ⅰ	東口キャンパス3階「演習室4」
7/29	国際福祉研究	東口キャンパス3階「演習室3」
7/30	災害福祉研究	東口キャンパス3階「演習室3」
8/5 or 6	精神保健福祉研究	東口キャンパス3階「演習室4」
8/6	障害者福祉研究Ⅱ	東口キャンパス3階「演習室3」
8/11	子ども・家庭と女性福祉研究	東口キャンパス4階「44教室」
8/19・20	心理:演習(発達心理学)	東口キャンパス4階「44教室」

8/26・27	心理：演習（社会心理学）	東口キャンパス3階「演習室4」
8/26・27	ソーシャルワーク演習	東口キャンパス6階「61教室」

※9月以降は『With』162号 or 163号でご案内します。

4 // その他

- (1) 進級手続者へ『2023年度 学年暦』『科目別ガイドブック2023』など副教材を送付済み
- (2) 履修登録用紙を提出締切日4/12までに送付いただいた方には、順次教科書発送を行っています。教科書に間違いや不足などがないか、同封の手紙でご確認ください。

*不足などについては、到着後2週間以内にお知らせください。それ以後の不足については、購入となりますので予めご了承ください。

修士論文作成に欠かせない 研究計画書

総合福祉学研究科
社会福祉学専攻修了生

橋本 美香

研究指導の先生方および大学院事務室職員の皆様のご指導とサポートにより、今春、わたしは総合福祉学研究科修士課程を修了することができました。本当に感謝の念が付きません。これから修士論文に取り組む院生の皆様に、わたしの2年間の学修経験のお話をさせていただき、少しでも今後の学修や研究活動にお役に立てていただければと思うところです。

研究を進めるうえでスケジュール管理が大切であることはご承知のことと思います。ただし、スケジュール管理は「具体的に」がさらに重要であると考えます。

1年目は、修士論文作成要件を満たすための単位取得が求められるので、履修する科目の選択、事前課題の取り組み、スクーリングの出席計画を立てることが求められます。当然ながら事後課題にも取り組まなければならないので、仕事を持ちながら学修する方は息つく暇がないのも事実です。わたしは、机の前面に、レポート課題提出日、スクーリング日程、事前事後課題提出日について、一覧表にして張り出しておきました。課題提出のタスクが終了すると一覧表の当該科目にクリアのマークを記載し、残された課題に手を伸ばす、といった形です。レポート課題では、科目担当の先生から提示されたテキストだけではなく、研究論文検索サイト「CiNii Research」や「医学中央雑誌」で関連する研究論文を集めました。その方が、多面的な考察につなげることができるようです。

また、同時に、1年次の社会福祉学特別研究Ⅰでは、科目担当教員および院生の方たちと十分に研究テーマについてディスカッションし、研究テーマの焦点をはっきりさせておくことが望ましいと考えます。この1年目の行動が、2年目の研究遂行を左右すると言っても過言ではないと思い

ます。

なぜなら、研究の疑問がそのまま研究テーマになり得るかというところではないからです。すでに明らかにされている事実を確認したり、研究協力者をどのようにして見つけようか、調査費用はかけられるのかといった検討をおこない、研究テーマの焦点化を図っていくことが求められます。仮説検証のための量的研究にするのか、探索的研究としての質的研究にするのかといった決断も必要になってきます。1年次の12月に研究計画書の提出が課せられていますが、できればここで具体的な日程や研究協力者（どこの誰）等を組み込んだ実現可能な研究計画書を作成しておくことが望ましいと思います。1年次の終わりに具体的な研究計画ができていれば研究は8割がた完成していると捉えられるのではないのでしょうか。先生方は質問したことに丁寧に回答をしてくださいますので、疑問点は抱え込まず質問されることをお勧めします。

具体的で実行可能な研究計画書が完成していれば、2年目はこれに沿って研究を進めていけばいいので、わたしは1年目より2年目の方がスムーズに研究活動が進められました。また、研究指導教員の先生から、論文提出期限というデッドラインを視野に入れて研究をすすめることのアドバイスをいただいております。例えば、論文提出期限が2年次の1月中旬なので、12月から1月までは文献確認と本文の誤字脱字等の最終確認に充てる。さかのぼって、11月は論文執筆、10月は結果分析、8月から9月は調査実施、とすると、6月から7月は倫理審査を通過していることが求められます。2年次になったら、まもなく倫理審査申請書が出せるよう、指導教員の先生とコンタクトを取りご指導を仰いでおくことが望ましいと思います。

とはいっても予定通りに進まないのが現実世界で、仕事を持ちながらではなおさらです。わたしは1年次の秋に病気のために入院治療が必要となりました。このようなときに、大変ありがたかったことは事務室職員の方

のサポートです。いつ連絡を入れてもメールや電話で誠実にご対応いただきました。励ましのお言葉も大変心強く受け止めることができました。また、定期的に課されるレジュメ課題も、スケジュール管理がおろそかになりがちなたしを研究モードに戻してくれたように思います。

もう一点、研究活動のモチベーションを保つために必要と思うことは、研究を楽しむことなのではないでしょうか。自分の研究が、世の中を変える一滴になるかもしれない。わずかな一滴でも自分が社会のためになる活動を行っているという自覚を持つことがやりがいにつながると思います。一人ひとり、どんな理由があるにしてもわたしたちは東北福祉大学に入学し、研究活動に携わることができました。このことに感謝し、今後も自分の研究を継続していきたいと思っています。

修士論文執筆を振り返って

総合福祉学研究科
福祉心理学専攻修了生

齋藤 美穂

修士論文執筆の過程を通して、自分自身がさまざまに活用し得る資源（強み）を有していることに気づかされることになりました。その資源の助けを得て修士論文を書き終えることができました。執筆の過程を振り返ってみると、論文完成に向けて、自分自身がそのさまざまな資源（強み）をどのように活用していけるかが重要なカギを握っていたように思います。

先行研究から助けを得る

研究を進めるにあたり、先行研究に触ることが重要であることは皆さん周知のことと思います。1年次の後半には、学位請求論文研究計画書を作成することになります。何について研究したいのか、どうしてそれを研究したいのか、どのような方法で進めることができるか、論文執筆の第一段階としてそれらのことを整理することが求められました。しかし、研究目的も、研究動機も、研究方法も漠然としており、研究計画書という形にするには自分自身の力だけでは要領を得ず、何かの助けが必要でした。先行研究は、ぼんやりと浮かんでは消え、浮かんでは消えている私の頭の中のイメージを形にしていく助けになりました。複数の先行研究に触れることは、自分自身が研究しようとしている事柄のこれまでの研究の成果や実績を理解することにつながりました。それはつまり、社会的背景を理解することであり、自分自身の研究動機を明確にすることになりました。また、「この先行研究と異なる角度から研究できるのではないか」「この先行研究とは異なる対象者について調べてみたい」「この研究手法や質問項目

は自分の研究に活用できるのではないか」など、自分自身が研究しようとしている事柄との相違性または類似性を見いだすことであり、自分自身の研究の新規性を確認し、研究目的を明確にしていくことの助けになったと思います。考察に取り掛かる段階になっても先行研究は大いに助けになりました。右往左往しそうになる思考の道筋を示してくれるのが先行研究だったと思います。自分自身の考えを支える基礎となるものだと思いますので、触れる先行研究が多すぎるということはないように思います。

指導教員に教えを乞う

論文執筆にあたり、指導教員の先生は一番の資源であり、支えであり、救いになります。研究計画書の提出を経て、指導教員が決定すると、早速、構造レジュメの締め切りが迫ってきます。私は、まずメールで、先生に研究計画書を送信し、自分自身の中でぼんやりとしている部分を何点か質問しました。先生からは、新しい視点やキーワードについて助言いただき、考え方を整理していただきました。雲のような形をしていた私の頭の中の研究イメージが、真四角になったような、“すっきり”晴れたような感じでした。「この先行研究を参考に読んでみて」とアドバイスもいただき、読んでみると、急に道が開けたように感じたこともありました。先生からの質問に、メール上ではうまく自分の考えを伝えることができず、オンラインで直接、自分の考えを話し、指導を受ける機会もありました。そうすることで、よりの確な指導を受けることができました。

基本的には、それまでの進捗内容を添付し、質問事項や指導を受けたい事柄をメールで送信し、回答をいただくという形で指導をいただきました。「これしか進んでいないけど・・・」「こんなことは質問するほどのことでもないかも」と少し躊躇してしまうこともありましたが、毎回、丁寧な指導コメントをいただきました。時にはするどい指摘もあり、「はっ」

としたり、「うっ」となったりしながら、先生からのコメントを何度も読み返し、論文に反映させていきました。励ましていただいたり、褒めていただくこともあり、指導教員の先生は、本当に支えであり、救いとなる存在でした。

事務室からのメールが尻を叩く

修士論文執筆を通して、時間は有限であり、自分の集中力にも限度があることを痛いほど思い知るようになりました。研究計画書の提出から始まり、構想レジュメの提出、倫理審査請求の提出、中間レジュメの提出と、最終的な修士論文提出までには、いくつかの関門があります。これらの提出締め切り日は学年歴に記されていますので、予めわかっていますし、自分の手帳にもメモしていますので頻回に目にはしているのです。しかし、事務室から届く提出期限についての連絡メールが、私の尻を叩くことになり、ようやく取り掛かるということもたびたびありました。時間は有限です。スケジュール管理は非常に大事になると思います。しかし、スケジュールを立てても、やる気と集中力は気まぐれでした。わかっている後回しにする、取り掛かっても集中できないということも稀ではありません。事務室の方のように“やる気スイッチ”を押してくれる存在は、提出期限に遅れることなく最後までやり抜くために大きな支えとなりました。

これから修士論文執筆に向かわれる皆さまには、自分自身が持っている資源（強み）を大いに活用されてください。指導教員の先生や事務室の方々など指導、支援をしてくださる方はもちろんのこと、一番の強みは自分自身ではないかと思います。研究に向かおうとしている好奇心や行動力、研究内容に対する疑問や興味なども自分自身の内にある強みだと思います。自分自身の内面にある強みを信じて、研究活動がより充実したものになることを願っています。